

## 令和5年度 学校評価についてのまとめ

### 1 成果

- (1) 昨年度の評価委員会での反省をもとに、学校評価項目の文言や内容を見直し、メディア視聴時間に関する新しい設問や指導の重点項目を設定した。それにより、小中一貫教育における小中共通の質問項目である「あいさつ」について、年間を通して教職員が意識をして指導することができた。
- (2) コロナが5類に移行し、PTAや地域と連携した活動が大変充実した。その結果、「学校行事」「地域連携」の項目において、保護者・児童・教職員ともに高評価を得た。
- (3) 教員のICT機器の活用が促進し、分かる授業展開に生かすことができた。

### 2 課題

- (1) 学校評価の新しい設問「メディア視聴時間」の項目では、保護者と児童との意識の差があり、テレビやゲーム等に対して家庭でのルールがなく自由に見たり遊んだりしている児童（家庭）が予想以上に多いことが判明した。
- (2) PTAや地域と連携した活動が前年度より充実した分、教職員の多忙感が増えた。

### 3 成果と課題を踏まえた今後の取組

- (1) 「メディア視聴時間」については、本校の課題である学力や学習意欲と関係するため、次年度は児童の発達段階に応じた情報モラル教育の実施と、様々な機会を捉えた保護者への啓発をしていく。
- (2) 校内だけでなく家庭や地域の中でも、児童が自ら進んであいさつすることや正しい言葉遣いができるように、学校での取組を知らせるとともに、懇談会や親子学習会等を活用し保護者を啓発していく。
- (3) 子どもと向き合う時間を確保するために、PTAや地域との役割分担を明確にしたり、さらに情報発信をしたりする等、担当者や地域と連携して、教職員の働き方改革を意識した特色ある学校づくりを推進する。